

姉属性専門誌

全姉連会報

第2号

2004 上半期

気になる姉モノ

総レビュー

『姉、ちゃんとしようよっ! 2』

『おね～さん DAY☆BY☆DAY』

『まってい』

『おねだり Sweetie ～恋のお色直しは何度でも～』

『フローリア・プラス』

『ドラマ CD お姉ちゃんの3乗～おねえちゃんきゅーば～』

『ドキドキ姉弟ライフ』

『Kiss X sis』

初めましての方も、おなじみの方もこんにちは。
この度は全姉連会報を手にとっていただき、ありがとうございます。
ついこの間発刊したばかりと思っていた全姉連会報も
2号目が出てしまいました。

*

一応、全姉連のご紹介を。

全姉連は「お姉さん」の魅力を世界に広め、推進していく非政府組織(NGO)です。
姉属性の普及、弟同志の情報交換を主に行っています。
全姉連総本部はWebサイト上で普段は活動していますが、
C65よりコミケへも進出しました。

本書は、私・全姉連総裁が実際に触れて体験した
姉ゲー・姉コミックなどについてレポートするものです。

*

今回は、おおむね2003年末頃から2004年半ばまでに
発売された姉ゲーを中心にレポートしています。
今期も断続的に姉ゲーが発売されましたが、総合的な姉ゲー度は…
今年も姉ゲーの話題は、あの大作に全て奪われそうです。

*

もっとも、2003年は姉ゲー元年だったのに対し、
2004年は姉コミック元年か？との声もあります。
今号ではあまり数多く取り上げられませんでした、
良姉の登場する漫画の情報が全姉連総本部に多く寄せられています。

*

それでは、本書が迷える弟のよりよい姉ライフの一助となることを祈って。

全姉連会報 第2号

目次

■ [姉ゲー] 『姉、ちゃんとしようよっ! 2』	6
■ [姉ゲー] 『おねだり Sweetie』	10
■ [姉ゲー] 『まってい』	12
■ [姉ゲー] 『ドラマ CD お姉ちゃんの3乗』	15
■ [姉ゲー] 『おね～さん DAY☆BY☆DAY』	16
■ [姉ゲー] 『フローラリア・プラス』	20
■ [姉コミック] 『ドキドキ姉弟ライフ』	23
■ [姉コミック] 『kiss × sis』	24
■ [姉コミック] 姉成年コミック簡易レビュー	25

2004年 上半期

姉モノ レビュー

『姉、ちゃんとしようよっ! 2』

『おねだり Sweetie～恋のお色直しは何度でも～』

『まってい』

『おね～さん DAY☆BY☆DAY』

『フローラリア・プラス』

『ドラマ CD お姉ちゃんの3乗～おねえちゃんきゅーぱ～』

『ドキドキ姉弟ライフ』

『kiss X sis』

- ・全てのレビューは、私・全姉連総裁が実際に体験して書いています。
- ・評価は、「姉萌え」観点からなされていることに十分ご注意ください。
いかに一般的な観点からは良いゲームでも、姉萌え度が低いゲームは評価が厳しくなっています。(もちろん逆の場合もあります。)
- ・“ジャンル”は、メーカー公称のジャンル名です。
- ・各レビュー冒頭のあらすじは、メーカーによる紹介文の引用です。
- ・極力ネタバレしないように書いています。もっとも、個人差がありますので、ご注意ください。
- ・2003年末から2004年上半期に発売された姉モノを中心にしていますが、過去のものであっても気になったものは構わず書いています。



姉、ちゃんとしようよっ! 2

メーカー	きゃんでいそふと
ジャンル	姉属性オンリーADV
発売日	2004年6月25日

柊家に養子として引き取られた主人公・空也は、6人のお姉ちゃん達に可愛がられて幼少時代を過ごした。

養父・柊翔（ショウ）は空也の軟弱な精神を鍛え直す為に、彼を遠縁である沖縄の犬神家へ約10年も預けたり、戻ってくれば、2人で武者修業の旅に出たりと連れまわす。

そして、旅に出てから約1年後――。

空也は全ての修行を終え、1人前の男と認定されて帰ってきた。ようやく柊家ででの永住が許可されたのである

その空也にとって、少年～青年時代の育ての姉ともいえる犬神帆波と歩笑が隣に引っ越してきた。2人は可愛い弟の空也に何かと接触してくる。

また柊6姉妹も相変わらず、個々のやり方で空也をかまう。新たなお姉さんたちの参入で、姉ライフはその密度を増していく。

Hな誘惑・甘やかし・罵倒……8人の姉から様々な形で構われ続ける空也。弟の気持ちは、いったいどのお姉ちゃんに向くのか？それとも欲張って全員まとめて？

決めるのはプレイヤー次第……

■帰ってきた姉ゲーの大本命

姉ゲー元年の2003年6月に発売され、姉ゲーナンバーワン¹の実力と人気をほしのままにした『姉、ちゃんとしようよっ!』の続編が、その1年後ついに発売されました。

振り返れば2003年10月、公式ファンブックの発売の頃、続編が出るぞ出るぞという噂と期待の中で発表され、姉しよ発売後

も毎週更新を欠かさなかったきゃんでいそふと公式サイト。毎週のスタッフ日記や主題歌・体験版のダウンロード、サンプルCGなど、姉属性業界で姉しよ2の話題が途切れる週は1週たりともありませんでした。

公式サイト上のメーカー通販は、予約が殺到し、発売前に受付が締め切られるという前人気の中、姉しよ2は無事発売されたのです。

■極上姉ゲー健在

姉しよ1は、全体的に見れば粗削りな面が残り、登場キャラの個性がゲーム全体を引っ張って面白くしていた部分がありましたが、姉しよ2はそういう点は無し。綺麗にセッティングされた舞台と演出の相乗効果で、お姉ちゃん達が一層輝いて見えます。あらゆる面でパワーアップという謳い文句に間違いはありませんでした。

グラフィックも文句なし。立ち絵もイベントCGもよく描き込まれ、ここぞという一枚は気合いが感じられ、美人揃いのお姉ちゃんを目に焼き付けてくれます。

システムは、前作ではストーリー本筋とHパートが緩やかに分離されていたのに対し、本作では一般的なADVスタイルで、ストーリーにHシーンが乗せられています。前作のような、日常の中で“したい時に、したい相手とする”ただれた生活は廃止。ストーリーの充実を図る上では必然だったのか。大好きなお姉ちゃんとのえっちな事は、そのお姉ちゃんルートに入るまではお

¹ 姉属性によるWebイベント「お姉ちゃん祭り2003」では大賞・部門賞を多く勝ち取りました。
<http://anedaisuki.kko.jp>

預けです。そういう意味で、ほ～んの少しだけお姉ちゃん達は慎み深くなりました。この点をマイナスと見るかどうかは弟の好きずき。私は、お姉ちゃんの好感度やストーリー進行度にかかわらず唐突にHできる前作よりは、本作の方が自然で良いかなと思います。1回の長さも強化されましたが、これで一般的なゲームの標準くらいか。もっと濃密な描写になれば申し分なしでした。

また、本作から導入された「お姉様ご奉仕システム」。要は好感度パラメータなのですが、大変分かりやすく良いです¹。おまけモードでいるかちゃんと透子先生による各キャラクター別のチュートリアル²が用意され、攻略で詰まる事はほぼ無いでしょう。気楽に甘い姉生活、がモットーの本作らしい気配りです。

■姉萌之度も大幅強化

さて肝心のストーリー。今作では「姉ゲー」であることが前にも増して意識され、とことん「お姉ちゃん生活」を満喫させてくれます。数えたわけではありませんが、“姉”と“弟”の漢字使用率は前作比3倍増くらいあるのでは？ともかく、各お姉ちゃんがそれぞれのスタイルで姉と弟の関係をプレイヤーに感じさせてくれます。誘惑、抱擁、罵倒、弟の奪い合い。そのどれもが「姉と弟」の関係抜きでは成り立たないようなシチュエーションで繰り広げられます。この点は前作に比べて大いに洗練されたと言っているでしょう。

そして、今作においても姉と姉の関係がストーリーの構成要素の一つになっています。と言っても姉妹井だ何だではなく、女同士の火花の散らし合いであったり、焼き

もちであったり、百合風な関係であったり³。姉と弟の関係だけでなく、姉と妹における姉萌えにも進出して、楽しみの幅が広がりました。

■キャラクター

・犬神 帆波（ねえや）

新顔の犬神家のお姉ちゃん。沖縄修業時代の育ての姉。その元気さ陽気さがにじみ出る立ち絵の公開時から一目惚れでした。

要芽お姉様と火花を散らすCGで、これは大物の姉だと予感し、そして的中。2からの新入りながらも、歩笑ねーたんと共に存在感溢れる姉でした。スタイルも出るトコ出ていて、ぴったりスパッツ。弟をいつももてあそぶ言動。姉として申し分なし。

そして、柊家の姉には欠けていた「世話の焼ける姉」という所が新鮮です。「このダメ人間！」とねえやに対する遠慮のない突っ込みが、本当の家族として姉弟として付き合っている事を象徴しています。こういう姉弟関係も憧れ。ねえやシナリオは、このダメ姉が更正するのかが主題で、きれいにまとめられていましたね。

・犬神 歩笑（ねーたん）

姉の帆波ねえやが見るからに姉然としているのに対し、歩笑ねーたんは、一見姉っぽくはない。しかし、とにかく一度本編を見るか、体験版⁴を楽しめば、これほど良くできた弟思いの姉は居ないと言えるであろう。それほど秘められた姉パワーの強い姉。弟をお風呂に入れる、いじめられる弟をかばって追い返す、添い寝で可愛がる、どれもが姉の優しさを感じさせてくれ、同じく

¹ 値ごとに変化するお姉ちゃんのメッセージが変わり、これを追っていくのも楽しい。

² チュートリアルというよりショートコント？

³ ともねえ×ねーたんが非常に良い関係に陥ります。直接的な描写はないのに、なぜかえっちな。

⁴ 体験版でも楽しめる添い寝シーンは特萌え。2での添い寝はねーたんが最強です。

優しいともねえとは一味違う可愛がり方にとろけます。

初めは無表情キャラかな、と思っていたのですが、それも大間違い。「…くす。」と「やった(ぶい)」は無敵。そして、実はちょっと黒い所もあって、それがまた素敵。

また、弟思いだけでなく、姉思い。犬神姉妹はそれぞれお互いを思いやることがよく表れていて、その輪に入る弟空也、の図式がしっかりと成り立っています。犬神家仲良し3姉弟の良さを味わって下さい。

・柊 雛乃(姉さん)

柊家6姉妹の最大権力者。1年経っても権威と容姿は変わりません。ただし、姉しよ2では皆のよきお姉さんとして、優しい気配りをする面が一層際だって表現されています。犬神姉妹が登場する事により生じたいさかいを鎮めたり、さらには犬神姉妹の姉代わりまで務める所はさすが。真に「姉」を自覚し、実践しているのは雛乃姉さんが一番かも知れません。

そんな縁の下の力持ちの雛姉さんも今回は大イベントが発生します。普段が普段だけに、凄まじい破壊力。長姉の威厳ここに極まれり。何度見ても飽きません。スタッフ様、ありがとう！

・柊 要芽(お姉様)

氷の弁護士は2になってもクール。でも、明らかに少し溶けかかっていますね。

前作までは、表の実力者としてその地位は安泰だったのに、柊家ヒエラルキーに属さない帆波ねえやという黒船登場により、ヤキモチ焼きの面と子どもっぽい負けず嫌いな面の顔が出ます。ねえやへの対抗心が間接的に空也への秘めた愛情を表していて、そこがまた可愛かったり。

前作ではストーリーの都合上、割を食って近づきがたい姉にされてしまいましたが、

本作では他のお姉ちゃん達と同列になり、一途に追いかければちゃんと幸せになれる。少々気むずかしい点は、クリア間際の甘さを引き立てるためのスパイス。最後は本当に甘くなるので、今度もそれを信じて。

・柊 瀬芦里(ねえねえ)

お気楽さアップ、猫チック度アップで魅力もアップ。金髪ナイスボディねえねえの屈託のない笑顔で今作も癒されました。

前作はドタバタばかりで流れてしまった感もあるねえねえのシナリオですが、今作ではねえねえの心の内が垣間見える話になっていて、日頃見られない一面を見ることができます。そういえば、前作では心の地雷に触れてバッドエンドが用意されていたねえねえ。心の奥深い所では繊細な所もあるお姉ちゃんなんですよ。まあ、基本は「お腹減ったにゃー」なんですが。今回も怪しい商売を企んでいます。

・柊 巴(ともねえ)

公式サイトの人気投票で4連覇を達成したともねえ。姉しよ2においても、その底なしの優しさ・強さを遺憾なく発揮してくれました。こんな菩薩のような神々しい姉は世の中に存在するのでしょうか？姉のタイプに好き嫌いはあったとしても、ともねえを嫌いなタイプと感じる弟はいないでしょう。公式人気投票で安定してトップを取り続けているのは必然なのです。

今作では、歩笑ねーさんと良い仲になったり、そのことで誰かさんから嫉妬されたりと、人気ぶりをアピールするイベントが多数。高校では同性にモテたという設定も付けられたりしています。

ともねえと言えば、やはり前作の纏身モノが印象的なんですが、本作ではその方向の話はお休み。カッコイイ姉の姿もともねえの大事な要素だったので、ちょっと残念。

でも、その代わりにストーリーがある意味180度方向転換していて、しかも非常に萌えます。あれは反則だろう… ビバ反則！

・柊 高嶺（姉貴）

柊家きっての高慢・高飛車・罵倒派の姉は2になっても手加減をしてくれません。自慢の美脚で蹴り倒してくれます。しかし、この「弱い者にはとことん強い」ことの裏返し、即ち、強い相手には滅法弱いところが強調され、柊6姉妹の中での最弱いじられキャラとしてなめられまくり。芸人なら涙を流して喜ぶ扱いですよ？

本作では姉貴のルックスに要注目。事前情報で、ツインテールを下ろしたりメイド服を着せられたりすることは承知済みだったのですが、他にもこんなに色々着てくれるとは聞いていなかった！しかも、表情がどれもそそる…。気の強い姉はこういう所で得をしていてずるいのです。

・柊 海（お姉ちゃん）

甘やかし大王・海お姉ちゃんは2になっても全く変わっていません。そしてさらに黒くなっていた…。呼べばどこでも瞬時に現れるお姉ちゃんには、本作でも甘やかされまくりです。メガネ着脱選択システムも新たに装備され、多様な趣味にも対応。

今回、特に印象的だったのはお姉ちゃんのボイス。「……なんだよ～」の独特のアクセントが素敵で仕方ありません。耳が溶けそうな感覚に陥るのは私だけですか？

前作では、途中辛くなるストーリーでしたが、今回は甘えん坊一直線。少々起伏に欠けるストーリーだったように思えます。しかし、海お姉ちゃんの場合、とんでもなく破天荒な話にもなりかねないからなあ…。

・秋山 衣瑠香

柊法律事務所の事務員であり、要芽お姉

様のペットであるいるかちゃんが、遂に攻略対象キャラに格上げ！前作では要芽お姉様に可愛がられているのを眺めるだけだったのが、今度は手の届く所になりました。

ドジっ娘ぶりは相変わらずだし、弟の健太君にも笑われっぱなしだけど、それでこのいるかちゃん。あたふたする様子に更に磨きがかかり、可愛さもアップです。

・月白透子

前作では、決死覚悟でHができたフェロモン系先生ですが、本作ではお預け。その代わりに、量のあるチュートリアル担当です。本編でも登場はありますが、ここまでサービス精神旺盛の姉しよ2なら、透子先生にもコレという出番が有っても良かったかなあ、とは思います。

・柊 空也（主人公）

我ら弟プレイヤーの分身。実に良い奴であり、姉の星の下に生まれた羨ましい奴。18禁ゲームの主人公は、敢えて無個性で、顔を描かないゲームが多い中、これだけ個性的で嫌みがなく憎めない主人公も珍しい。姉しよのお姉ちゃんズが弟ラヴになるのも仕方がない。

本作では、彼の持病の「DNA 異常発作」が快復傾向。治らなくても良かったのに？

■姉しよの今後も期待

今これを書いている現在、具体的な発表はないのですが、姉しよ関連商品がこの後も企画されているようです。ファンブックやノベライズはあり得る話にしても、それ以外にも何かあるのか。続編については消極的のようですが、いずれにしても姉しよはまだまだ姉属性の弟たちを掴んで離してくれそうにありません。



おねだり Sweetie～恋のお色直しは何度でも～

メーカー	裸足少女
ジャンル	おねだりコスプレ AVG
発売日	2003年11月28日

主人公、水上秋介（みなかみしゅうすけ）は母性本能を刺激するような、かわいい男子。彼にひと目ぼれた担任の女性教師、綾瀬 ゆずは（あやせ ゆずは）と付き合うようになる。秋介の従姉妹、水上美由子。彼女は名うてのコスプレイヤーで同居人の秋介をコスプレの世界に引き込んで、コスプレ仲間になろうと企んでいるが、彼は一向に興味を示そうとしない。

そんな折、秋介に恋人がいることを知った美由子は一計を案じる。秋介に自前のコスプレ衣装を手渡し、「これを恋人に着せなさい。そうしたらきっと秋介にも、コスプレの良さが分かるから！！」と、無茶な要求をする美由子。美由子に弱みを握られている秋介は「一度だけ」と言って、しぶしぶ、彼女の言うとおりにすることを約束する。

秋介はゆずはと2人きりになると、美由子のコスプレ衣装を手渡し、「これを着てほしい」と頼む。はじめのうち、ゆずはは秋介の要求にとまどい、断る。

しかし、秋介がおねだりすると、ゆずははどうか「ウン」と言う。おねだりしている際中、ゆずはの困った顔を見て、秋介はなぜかドキドキする。

その日を境に、秋介とゆずはの2人はコスプレHにのめりこんでいく。美由子の悪企みも知らずに――

■おねだいで万事解決

姉ゲーの姉は、弟に対して姉の権威を振りかざし、言うことを聞かせる特権を持つ反面、弟のおねだりには寛容でなくてはなりません。姉が甘やかした体質であろうがなかろうが、姉萌えの弟は、そのほとんどが甘えん坊体質です。そんな弟のおねだりをいやがりながらも「そんなに言うのなら…」

と受け入れてくれるお姉ちゃん最高！をゲームにしたのがこの「おねだり Sweetie」、通称おねすい。

主人公は従姉宅に居候し、学校には天然系母性愛先生とクールな眼鏡委員長。そして記憶に残る謎の女性。全て年上です。

ゲーム開始直後は、先生か委員長に的を絞り、従姉に持たされるコスプレ衣装を彼女に着てもらおうためのおねだりを重ね、学校でそのまま押し倒すのが一日の大まかな流れ。（よって、毎日のように絡みます）

はじめは嫌がる彼女も次第に…となり、色々起こる事件を経てエンディングに向かいます。

このコスプレHにまつわる暗躍者が同居の従姉・ふゆねえなんです、彼女の姉っぷりは後述。

■とにかくH先行

18禁ゲームである以上、Hに妥協は許されない、が持論の貴弟にもきつと十二分に満足できるほど、アダルトシーンが非常に濃いです。

まずパターンが豊富。十数種類のコスプレ衣装に対し、それぞれ2パターンのシーンが収録。一つ一つの尺も長く、そして何より淫語のオンパレード。君ら卑猥な言葉喋りすぎ！と突っ込みたくなるくらいに。

はじめは嫌がるお姉さん達を、腕づくではなく姉性愛をくすぐるおねだり力でねじ伏せていく過程は見もの。ただ、一旦コト

が始まってしまうと、それほど姉萌え分が出てこないのはやや残念なところか。

■キャラクター

・綾瀬 ゆずは（先生）

ぼやぼや天然母性愛の古文の先生。お嬢様育ち+女子校純粹培養で、ウブで照れ屋さん。

そんなおとなしめな性格や経歴に全くそぐわず、スタイルは B115 の爆弾持ち。立ち絵のはち切れそうな胸のボタンは絶対挑発しています。

もちろん彼女もおねだりに弱く、「やーのお、やーのお」と拒みながらも、全ておねだりを聞いてくれる優しい先生。ウブな割に、口からはあんなセリフが飛び出します。

・日下部 渚（眼鏡委員長）

クラスメートだが、幼少時の入院生活のため進級が遅れているので、歳は1つ年上。

性格は、見た目通り、成績優秀・クールな眼鏡っ子委員長そのものです。

主人公の面前でもクールさを保ちながら、彼女のことを褒めたりすると慌てる様子はお約束でも可愛いところ。

おねだりに負けて一旦服を脱げば、創作淫語がポンポン飛び出す女の子に変身。クールなお姉さんとのギャップがたまらないという弟にはきっと好みになるはず。

・水上 美由子（同居の従姉）

同居人の大学生であり、コスプレイヤーであり、弟からかいヤー。ノリの良い性格で活発なお姉さんです。

弟もてあそび系お姉さんが好きな弟にはゾクゾクするセリフの連発。

例えば、

・これでもお姉さまの指令に逆らうつもり？
・う〜いじわるする〜……。いつか寝てる間に犯しちゃうから

しかし一方で、甘やかし姉の要素も。

・ちゃんとした可愛い子と付き合ってるのかとか…ちゃんと仲良くやってるのかとか…。もう心配し出したらきりがいいわ。
・いやあ、お姉ちゃん、安心したよ。いい子そうだしね。安心して、秋介を預けられるわ。
・早く起きないと、芙由子お姉ちゃんがチューしちゃうぞっ♪

ただ、もったいないのは、ふゆねえルートが短いこと。おまけっばい気さえします。

・？（隣の住人）

主人公が小さかった頃に隣の住人だったお姉さん。ストーリー全体の鍵になるキャラクター…のはずが、少々中途半端に終わってしまうので、物足りない。

見た目も行動もお姉さんの良い見本のようなお姉さん。それだけに、意外と出番が控えめなのはもったいなかった。

■ H 中心で楽しみたいならば

ふゆねえの元気な姉っぷり、ゆずは先生の母性系先生を楽しみながらも、やはり特筆すべきは H 方面の充実ぶり。1周では CG はおろか、回想シーンも埋まりきりません。また、淫語乱発がこのゲームのウリなので、お姉ちゃんにあんな言葉を言ってもらいたい願望を満たしてくれるでしょう。もっとも、主人公もボイス付きなので、お姉ちゃんに向けてもそんな言葉も言っちゃってますが、それはお好みで。



まっつい

メーカー	Complet's
ジャンル	末っ子体験 AVG
発売日	2003年12月19日

良太くんは、突然、両親の都合で親戚の岡野家に居候するコトになってしまった。しかも、家での扱いは「末っ子」同然というもの……。

末っ子は、からかわれたり、理不尽なお願いやコンビニへのパシリも嫌とは言えない立場。岡野家三姉妹（OLの長女：瀬奈、女子なんちゃらの次女：加奈、同級生の三女：真奈）も例に漏れず、「弟」の良太くんに対してやりたい放題。

その一方で、香織おばさんは「末っ子」の様に、良太くんを過度に甘やかしてくれるんだけど。

そんなドキドキな毎日の中、成り行き上起きちゃう「嬉し恥ずかし」なコトもあつたりして……良太くんはどうなってしまう？！

■まっつい=末弟

姉ゲーと言えば当然「お姉ちゃんがたくさんですよ～！」という宣伝文句が思いつくところ、あえて「**ジャンル：末っ子体験 AVG**」というプレイヤー主体のジャンル表記がされた本作。長男として生まれ育った総裁にしてみれば、「末っ子」という甘美な響きに引き寄せられました。これが男兄弟だけの末っ子だったなら我慢できませんが、姉ばかりに囲まれた末っ子ならば話は別。右を向いても左を向いても姉ばかりの末弟。

我ら姉属性の弟にとっては地上の楽園…のはずでした。

■「ママクラブ」のコンプリーツ

本作は「母性～ママクラブ」などを出しているコンプリーツのゲーム。原画も同ゲームと同じ“まめ”氏で、むっちりツヤツヤのCGが目を引きまします。これって好みに分かれる方なのかなあ。私は好きな方ですが。（にゅーりん大きめなのはちょっと…）

三女の真奈ちゃんを除き、たぷんたぷんな身体がウィンドウ一杯に広がるので、お姉ちゃんはやっぱり体格が良くないと…という弟なら満足行くでしょう。

ただ、CGの量的にはやや不満でした。

■あつてなきストーリー？

大事なストーリー面。

最近のアダルトゲームは、日常に非日常を織り交ぜてファンタジー調に仕立てたり、別れと再会をドラマチックに演出して涙腺をいかに緩めさせるかに奮闘しているじゃないですか。感動できないゲームはゲームじゃないと言わんばかりに。

そんな昨今の風潮に一石を投じているのが「まっつい」だと思われます。

主人公は女ばかりの親戚宅に預けられる所からスタートしますが、それから約2週間、朝起きて学校に行つて帰つてきて寝る生活が続きます。何か事件が起きたりとか、大きなイベントが待っていると、面倒な

ことは何一つないので安心！

お姉ちゃんデート？お姉ちゃん旅行？ありません。イベントはほとんど家庭内で済みます！私のように自宅が一番落ち着く人間には住みよいはずです。

……あのう、もう少し話に起伏があってもバチは当たらないと思うんですが。家の中だけではイベントにも限界があります。

せめてHシーンくらいは濃厚であってほしいと思うものの、淡泊な事実描写にとどまり、下手をしたら自分にも書けそうな内容で、残念でした。かなりあっさりした時間で終わってしまうし。

■システムに飽きが

ゲームの流れは、「学校での授業選択→夕食後の行動選択→寝る前の行動選択」が基本パターン。

学校での選択は、CG 回収目的程度の役割しかなく、自宅での行動選択はどれを選ぶと誰を狙えるのか明確でないなど、攻略サイト無しでは難易度高いです。

学校では同級生との会話が発生するのですが、「というわけなんだ」（ほぼ原文通り）で終わってしまって、ストーリー・フラグともに無影響。

自宅でも、ルートにかかわらず全く同じ日同じパターンで小イベントが続きます。この辺は何とかして欲しかった。

ところでこのゲーム、1シナリオ約2週間なんです。日付や曜日の概念がなく、土曜・日曜が存在しません。いいのか、それで。

■姉度ならぬ末弟度は？

末弟ぶりはよく出ています。日常的に受

け身。主人公から動いていくのではなく、姉の方からアクションがあります。パシリや雑用を命じられるのは、気の弱い末っ子ならでは。Hも全てやられっぱなしです。

そういうわけで、末弟度は高いとはいえ、姉度は少し低め¹。主人公が単に可愛いおもちにされている感じです。姉から弟に対する恋愛感情や姉弟愛の表現は薄く、「弟ラブラブお姉ちゃん」を期待するとがっかりします。姉ゲーでは、姉が弟のことを密かにでも想っていて欲しい…と考えるのは仕方ないと思うんですがねえ。

■キャラクター

・岡野 香織（三姉妹の母）

おっとり温厚ママです。設定42歳。見た目は若いので、熟女ダメという人でもぎりぎり許容範囲に収まってくれるのではないのでしょうか。

できた子どもが3人とも女の子だったので、男の子である主人公を息子同様に可愛がり甘やかしてくれます。

性に関してあまりにおおらか²。

エッチな本でオナニーする位なら、おばさんに言って欲しかったなあって。

てな具合に。

・岡野 瀬奈（長女）

知的で引き締まった印象を受ける眼鏡がチャームポイントのOLお姉さん。

主人公をウブで可愛い弟と見ていて、時々ちょっかいを出しては楽しむお姉さんです。

基本的には優しいお姉さんタイプなんです。コンビニの使い走り頼む時などは、

¹末弟度と姉度がどう違うのか、言ってもよく分からない。

²この一家全員がそもそもおおらか。

……良太さあ。お姉さんはね、加奈と違って暴力は嫌いなの。わかる？

としたたかな面もあり、こんな所が本作のコンセプトの一つ「末っ子生活」を上手に表現しています。

瀬奈姉さんのシナリオでは、主人公はいよいよもてあそばれます。一言で言い表せば「モルモット」？

・岡野 加奈（次女）

体育会系女子校生のお姉さん。

柔道部副主将という設定から、四六時中痛い目やいじめに遭わされるかと思いきや、そんなことはないので安心。痛いことをされても、それは加奈姉なりの愛情表現。姉からの痛い仕打ちに慣れている姉ゲープレイヤーなら物足りなささえ感じるかも。

性格はかなりオープン。風呂上がりは、良くてパンツ丁。彼女にとっては「女の裸は弟が喜んでくれる」＋「見られて減るモノじゃない」＝「見せてあげよう」くらいでしかないのです。

体育会系だからか、上下関係が染みついているようで、主人公は子分のような扱い。その代わりご褒美も忘れません。

頑張ったじゃん、良太。ナイス・ピストン。

・岡野 真奈（三女）

主人公とは同級生。1か月誕生日が早いので、形式的にはお姉さん。

ママ＋三姉妹の中では最も常識人で、母や姉の暴走に対するストッパー役です。

お年頃でもあるので、主人公が同居することになったことを喜びながらも、それを表面に出せずにいる…分かりやすいと言え

ば分かりやすい女の子です。

彼女のルートも一応あるのですが…期待しない方がいいかも。母＋3姉妹がメインのゲームなんだから、他の姉妹と同等の扱いを受けてもいいはずなのに、なぜかおまけシナリオ程度でしかありません。

■ 全体に物足りなさ過ぎ…

前述の通り、あまりに無内容なストーリーにはがっかり。ストーリーは重視しない立場のプレイヤーでも、これではあまりに退屈ではないかと思えます。せめて日常の会話パターンが豊富だったり、発生イベントが小粒でも数多く用意されてさえいれば救われたはずなのに。

H 中心で楽しめればまだ 18 禁のゲームとして存在価値が見いだせそうなものの、それさえも不十分でした。テキストスキップしなくても、あっという間に終わってしまうなんて…。もしパソコンゲームにも SIMPLE 某のように低価格レーベルがあって、「まってい」がその1本なら納得せざるを得ないんですが。

せっかく「まってい」なる設定に目を付けたんですから、それをとことん追求するようなストーリーやイベントを織り込めばもっと「まってい」ライフを楽しめたんじゃないだろうか。織り込むスペースはいくらでもあったんだし。それができなかったのは、この岡野家の4人が羽目を外しきれなかった点にもあると思われまます。

考え方や行動が少し変とは言え、結局はみんな人の良いお姉ちゃん。もう少し毒があるくらいの方が、刺激を求めがちな我ら弟は満足するはずで。

以上、あまりに残念と言わざるを得ない1本というのが私の感想でした。

【姉ドラマ CD】

ドラマ CD お姉ちゃんの3乗^{さゆーぶ}

シナリオ	Marron / 竹井 10 日
発売元	HOBiRECORDS
発売日	2004 年 4 月 30 日



■まさかのドラマ CD 化!

姉ゲーファンならば説明不要の姉ゲー、Marron の「お姉ちゃんの3乗」がドラマ CD 化されました。

同社の姉ゲー「秋桜の空に」は既にシリーズ化¹されていることからすれば、おねきゅーのドラマ CD 化もあり得ないことではなかったのですが、「登場キャラ総ボケ役のおねきゅーがドラマ化に耐えられるのか」「独特のテキスト表現で笑いを取っていたおねきゅーは、音声になっても大丈夫なのか」「いやらしいわよねネタを喋ってくれる声優がいるのか」等々考え合わせると、難しいだろうなあと思っていたワケです。

■ふたを開けば凄いキャスト

ところが、姉萌え派によるお姉ちゃん祭り²の開催まっただ中の2003年12月のクリスマス頃。「おねきゅードラマ CD 化決定」のアナウンスに、おねきゅーファンの弟一同が沸きました。

しかし熱狂はそれだけではなかった。続いて発表されたキャストに誰もが吃驚。

未空…草尾毅／七夏…久川綾／小鴨…望月久代／立夏…浅野真澄／いりあ…大谷育江／デビル…金田朋子／レモン…こおろぎさとみ／夢子…田村ゆかり／**タケル…堀江由衣**

おねきゅー随一の問題児・タケルを堀江由衣が！これは相当インパクトありました。おねきゅーを知らない堀江由衣ファンには分かるまい、そう思いました。

■内容も良かったのであ

元のゲームがボイス無しだったので、イメージと大きく違ったらどうしようという不安はありましたが、事前の告知用宣伝ドラマで徐々に慣れていったせいか、私はドラマ CD 版のおねきゅー世界にはすぐなじめました。

シナリオは当然、本編を手がけた竹井 10 日氏。ドラマ CD 版でも快調におねきゅー調の笑いをかましてくれます。本編のノリが好きだったら、安心して聴けます笑えます。本編のネタの使い回しも無しのオリジナルです。

声優さん達もさすが実力派揃い。本編さながらの流れのある展開を見事に演じきっています。

お姉ちゃんズが歌う主題歌「きゅーぶ de おねえちゃん」フルバージョンも必ず聴くべし。私はもう中毒の勢いで聴いています。

これを読んで聴きたくなった弟への注意。このドラマ CD、販売している店に限られています。HOBiRECORDS の公式サイトで販売店を探してからどうぞ。最終手段はメーカー通販です。

¹ 今なお新作が出続けています。

² 12月6日の「姉の日」にちなんだ Web イベント。

<http://anedaisuki.kko.jp/>

立った姉のイベントがスタート。改めて言いますが、8週間の会話は全て固定なので伏線が弱く、唐突な感じが否めません。

システムはこの通りかなり検討の余地があると思うのですが…企画の段階で気付かなかったのでしょうか。半分の4週間は固定でも、後半は1人に絞れるとかすれば、まだマシになったかもしれないのに。

結局多用することになるスキップ、そしてバックログなどのインターフェイスも少々使いづらくて改良の余地があったり、修正パッチを適用しないとクリアできないキャラクターがいるバグなど、詰めの甘さも目立ちました。

■テキストは姉萌え十分!

システム上の不満をずらずらっと書き連ねてしまいましたが、お姉ちゃんのセリフは転げるほど姉萌えワード満載。前半の甘甘姉の炸裂ぶりは最高です。これはどんな弟でも満足行くんじゃないでしょうか。

楽ちん(主人公)、会いたかったわあっ!
ああん、プリティー♪弟 LOVE ッ!!

こら、逃げるなあ〜!! 弟はね、おとなしく姉に可愛がられておくものよ〜!

柔らかいだろ? もみもみしても良いんだぞ。姉ちゃんのおっぱいだ、遠慮すんな。

姉さんは甘く囁いて、僕の肩に腕を回してきた。

「姉弟のお、スキンシップう〜」

どうです?

■衝撃的致命的結末

スママセン、せつかく褒めたのに、またどん底です。

こんなに姉萌え口調で弟を可愛がってくれるお姉ちゃん達ですが、本当のお姉ちゃんは誰なのか、どうしてこんなに多くのお姉ちゃんが突然現れたのか。

これらの謎は、どのお姉ちゃんにもフラグが立たない場合のエンディングを見ると明らかにされます。

もちろんここでは書きません。しかし、かなり衝撃的な内容です。それもがっかりする方向で。

一旦背景を知ってしまうと…白けちゃうかも…。

■キャラクター

・蒼井 摩志子 (月曜日)

明るい女子大生おねーさん。弟のことが大好きであると同時に、自分が姉であることも気に入っている様子のおねーさんです。

姉ゲーとしては標準的なクセのないお手本のお姉ちゃん、万人に好かれるタイプの姉でしょう。

お姉さん風を吹かせて、あれこれやってくれようとする割に、実は家事は苦手、ドジっぼいところもある姉。

また、ストレートに愛情表現してくれて、じゃれついてくる姉でもあります。

・伊万里 ひらく (長女)

精神的に男勝りする面もある、がさつ系元気お姉さん。姉貴とか姉御という言葉が似合います。

気取らない、飾らない性格で、分かりや

すい姉。兄に近い姉と言えるか。

がさつ系お姉さんのご多分に漏れず、アルコール好き。

お、いい飲みっぷりだな。さっすがあたしの弟だよ。

こんな姉だからこそ、ふと女っぽいところを見せて弟をドキドキさせる武器も隠し持っているの、要注意。

また、弟のためならおっぱいの1つや2つ減るものじゃなし、と思っっている姉なので、チャンスがあれば甘えまくりで。弟思いの良い姉ですから。

・今戸 佳恵（水曜日）

のんびりマイペースな、ほんわか保母のお姉さん。失敗だらけの空回りドジっ娘お姉さんというよくある設定…だったようですが、実際はそれほどでもなく、やきもきさせられるようなこともない姉です。むしろ、しっかり者の部類に入るのでは？

職業は保母さんだけあって、しっかりと世話焼き。もちろん物腰は子供に向かう時のそれ。5人の姉の中では最も母性的な姉になります。

でも「お姉ちゃん」と呼んで欲しいらしく、「お姉ちゃん」と呼ぶと喜ぶ。お姉ちゃん！

そんなおっとりお姉ちゃんの割に、ウブではなく、性の面ではしっかりした考えの持ち主。男の生理にも理解のある姉です。

・有田 悠子（木曜日）

歯科医をしている知的でメガネなお姉さん。歯を大事にしないと死に至るぞと脅かし、弟のことも、弟の口の中のことも心配してくれる姉です。

5姉中、最もクールな姉で、どちらかといえば天然いじめ姉気質な所も。それもこれも弟思いゆえのことですが。

甘い物は歯の敵だと言いながら、実は甘い物好きなんじゃないの？という可愛い面も覗けます。

声がボーイッシュで、好きな人には良いかも。

・瀬戸 ユリカ（金曜日）

ブランドもので身を固め、全身からフェロモンを発散させている、困ったお色気たっぷりお姉さん。職業は社長秘書。

ぱっと見が派手なので、性格も

服は全部、こういうブランドものばかり買ってると思ってたんでしょ。

食事は当然外食で、ディナーはいつも男におごらせてると思ってたでしょ。

夜な夜な男と遊び歩いている、尻軽女と思ってるんでしょ～！？

と思われがち。

でもでも、実はとても家庭的で、料理。特に和食が得意だったり、編み物もできたりして、家事もよくできる姉らしい姉なんです。

こんな綺麗で素敵なお姉さん、しかも器用で優しいお姉さんはどこに行ったらボクにももらえますか？

・信楽 晶（友人）

主人公の通う美術学校の友人。無愛想でぶっきらぼうで冷たい物言いをするが、主人公に親切にしてくれる。

突っかかってくることもあるが、それは主人公に対して気にあることがあるから？

ある秘密を抱えていて、それはクリアによって明らかになります。不覚にもちょっとドキッとさせられました。姉とは全然関係ないんですけど。

・大文字 にあ（家出中の少女）

一度誰かをクリアして、その後公園に行っていると出会える謎の少女。外見はかなり小学生で、行動や仕草は猫っぽい。

隠しキャラではなく、一応きちんとした登場キャラクター。

姉ばかりが登場するこの姉ゲーにおいて、あえてこんなちっちゃい子を出すからには、何か秘密があったり、ストーリーに大きく絡む謎があるんだろう、と思ったら…何もなかった。え？じゃあこの子の存在意義って何？「おね〜さん DAY☆BY☆DAY」というタイトル名のゲームの購買層に、この子がヒットする確率はかなり低いと思うんですが。そう言う意味でも謎のキャラ。

■ 期待はあれがぁ…

久々の多人数姉ゲーで大注目の1本だっただけに、システムの根本的なまずさ、盛り上がり欠ける展開、危なげなCGで、残念なゲームに終わってしまっていました。主人公の境遇や考え方が暗くて救われず、読後感もイマイチで残念。

姉の設定、セリフは十分すぎる出来だったので、もっと楽しみやすい見せ方にしたら良かったはずなんですけどね。修正パッチを当てないとクリアできないキャラがいるあたり、どうも見切り発車で発売したように思えてなりません。

また、せっかくの多人数姉モノであれば姉一弟のやりとりだけでなく、姉一姉のやりとりとか、姉同士での弟奪い合いとか、そういうにぎやかさがもっと欲しかった。いや、全くないわけじゃないんですけども。ゲーム開始後すぐに弟奪い合いシーンが出てきたこともあって、その面ではかなり期待したのに、後が続きませんでした。

と、ぐだぐだ言っていますが、我慢しましょう。せっかくの姉ゲーですから。システム上の不満だって、プレイしている時の我慢で済むことだし。

しかし、最後に明かされるストーリーの核心はやはりショック。そういう結末ならば見ない方が良かった。話のウラがそういうことだと一度知ると、「じゃあ、これまでの甘い姉萌えの日々は一体…」と考えざるを得なく、ともすると全否定にもつながりかねないんです。未プレイの諸弟には、何を言っているかよく分からないとは思いますが…

なお、姉弟脱却型シナリオ¹も含まれているので、この点でも評価が下がってしまいます。お姉ちゃんは最後までお姉ちゃんदैて下さい。

これから買ってプレイしようと思っっている諸弟へのアドバイスとしては、

- 1) 1周目が最も楽しい。1周目は腰を落ち着けてじっくりプレイ。逆に言うと、賞味期限は1周目までなので、それを念頭にコストパフォーマンスを計算すべし。
- 2) 割り切ってプレイしたければ、最初は特定の姉を落とさないノーマルエンドを迎えて、真実を知っておく。夢を追いたければ1人ずつ確実に。
- 3) Hに過剰な期待を抱かない。

後ろ向きなアドバイスだな、こりゃ。

攻略ポイントはアズライト公式サイトで紹介されています。少々不親切な所もありますが、とりあえず足りるでしょう。

¹ 姉と弟の関係を捨て、男と女の関係に至ろうとする言動が見られるシナリオ。姉ゲーファンにはタブー視される。



フローラリア・プラス

メーカー	XUSE
ジャンル	誘惑 VS 純愛 ADV
発売日	2004年2月20日

色とりどりの花咲き誇る春の日。桜吹雪に導かれ、僕は懐かしい女性と再会した。母を早くに亡くした僕にとって、母でもあり姉でもあった幼なじみ。幼い僕の初恋がフワリと脳裏をよぎる。唯一の趣味である園芸は、彼女から教わったものだった。そう。それは、感動すべき再会の物語。——にはならなかった。

「私、今日からこの家に住むから。よ・ろ・し・く♪」
数学教師になり、僕の通う学園に赴任してきた彼女は、人を驚かせたり意地悪したりするのが趣味の悪ガキのままだった。いや、その悪さぶりは、会わなかった数年の間にエスカレートしていた。

気が付けば、僕の家には教師が3人も同居するという事態に陥っていたのだ。僕の担任の化学教師、そして学園長の娘であり同じく新任の体育教師。しかもこの3人、旧知の仲である上に、同じ様な悪戯好き揃い。更に困った事に全員が美女である上、誘惑の術にも長けていたのだ。食虫植物よろしく、僕はその甘い香りに引き寄せられた、哀れな虫になってしまう。

どうしよう——

僕には今『好きな女の子』がいるっていうのに。

好きな女の子への純愛を貫き告白するか。それとも、同居している美人教師たちの誘惑に負けてしまうのか。

『花畑～フローラリア～』に咲き乱れる花々から、僕は1本の、本当に愛すべき花を選び出さなければならぬ。たとえ、その選択に艱難辛苦のあろうとも！

■年上率 66%学園ラブコメ

見かけは普通の学園もの。しかし、攻略対象6人のうち3人は先生(姉役1人含む)、もう1人は先輩と、実に約66%が年上という隠れ姉ゲーなのが、このフローラリア・プラスなのです。

本作は、2年前に「フローラリア」として出されたものに追加CGや補完エピソードなどのプラス要素を加えてリニューアルしたもの¹。前作よりもパワーアップしながら定価ベースで5800円のお手ごろ価格。奇抜なストーリーや暗い場面もなく、誰でも安心して楽しめると思われる良作でした。

さすがリメイクされるだけあって、不満らしい不満が見あたりません。

システムはオーソドックスな選択式アドベンチャー。意地悪な選択肢もなく、分かりやすいです。グラフィックも問題なし。

そして、ストーリーが綺麗にまとまっているのが良い点です。どのシナリオも起承転結がしっかりしていて、実があります。最近はこの基本とも言える起承転結の無いだらだらストーリーが多いように感じていたので、評価に値するでしょう。

■年上の誘惑 VS 純愛

ゲームをスタートすると、最初に同級生・下級生・上級生の3人の誰を攻略対象とするかの選択ができます。そして、その3人にそれぞれペアになる先生キャラがあり、前三者をクリアする事によってペアとなる先生も狙う事が可能になります。

この生徒／先生ペアはストーリー上も上手く織り込まれ、ゲーム中学生側と先生側の衝突イベントが発生し、時にはその場面

¹ 前作はプレイした事がないので具体的な違いは分かりません。

に立ち会う事もあって、どちらの肩を持つかの選択を迫られます。生徒側の若くて一直線な純愛 VS 年上ならではの余裕と自信から来る誘惑—これがフローリアの大きな特徴です。

純愛を貫く選択も良くできているのですが、誘惑にひたすら弱い我ら姉属性なら、素直に先生に転ぶべし¹。「お姉ちゃんに任せなさい…♪」とか「ご褒美…あげよっか？」のような H が大好きなら絶対に。

■キャラクター

・白瀬 憂（同級生）

メインヒロイン。ヒロインらしく、明るくて気取らない、優しい性格。ちょっとドジ気味で、あたふたする女の子。

主人公に好意を抱いているが、積極的に表せられないところもヒロインとしてのお約束です。

そう内気かと思いきや、ストーリー上、憂ちゃんとペアになっているのは鈴姉で、2人が(主人公の居ない場で)火花を散らすシーンでは対等に立とうとしたりで、芯の強い面もみられます。単に純真少女で終わっていない点が存在感を高めています。

ちなみにフローリア以降、彼女に焦点を当てた「憂ちゃんの新妻だいあり〜」が出されるなど、人気のヒロインです。

・加賀 御文（下級生）

中学の時から主人公を慕って、同じ学校に入学してきた新入生。

これでもかと言わんばかりの妹キャラ。もっとも、呼びかけ方は「センペア〜イ♪」ですが。常に「構って光線」を出し続け、もし彼女にしっぽがあれば、始終ぶんぶん

振り回しているタイプ。妹属性にはさぞかしたまらない子だろうなあ、と私でさえ思います。

そんな彼女も家では実は姉。弟と妹がいる設定です²。そう言われてしまうと、「この子が自分のお姉ちゃんだったら…」と夢想して独り悦に入ってしまうほど私がダメ姉属性とでも言うんですか！（その通り）

ストーリーは完全に“兄妹脱却型”。姉属性には“姉弟脱却型”はタブーですが、妹属性はどうなんでしょう？

ちなみに彼女の将来の夢はこれ。

子どもは男の子と女の子1人ずつ。お姉ちゃんと弟がいいですよ……年は2つくらい離れてて、すごいお姉ちゃん子の弟で…

姉属性の資質ありか？

・三ノ宮 由佳里（先輩）

学生会会長で、お嬢様で、意地っ張り。ガードが堅く、主人公の前では素直じゃありません。

とまあ、よくある先輩の設定の心づもりで攻略始めたんですが…これが可愛すぎ！事前の予想を仏恥義理で引き離し、爆萌えの先輩！！

平静を装うのも、意地を張るのものとにかく下手。クールさを保とうとしているのに、感情のわかりやすさは作品中1番。彼女を知るにつれ、「そ、そんなことありませんわ」と慌てる一言が大いに非常に萌えます。キャラクター紹介には「高飛車」なんて言葉も付いていますがとんでもない。一度先輩の可愛さを知ってしまった後では無礼千万であります。

ストーリーは詩乃先生と対で、詩乃先生との主人公奪い合い対決は非常に熱い。主

¹ と言っても、はじめから先生を狙って行く事はできないのですが。由佳里先輩は例外。

² ゲーム中には登場しないのが残念。

人公の事を意識していると悟られないよう常に努めている先輩が、その主人公の目前で可愛い後輩(主人公)を先生に取られまいと必死になるシーンは感動さえ覚えます。

なお、アフターシナリオで登場するママも素敵過ぎ。ぜひぜひお義母さんと呼びたい呼ばせて下さい！

・麻生鈴音 (姉役で新人教師)

母を亡くした主人公にとって、母親代わりで姉役で幼なじみの女性。はっきり言って悪女。純情な弟の気持ちをもてあそびまくり！突如、主人公の家に押しかけ、弟の成長ぶりがみたいと言ってはズボンを下ろしにかかり、弟のことは何でも知っておかなきゃと文字通り弟に手を出す。弟が自分以外の女の子と親しげに話をしているところを見れば、ジト目で圧力をかけてくる…そんな酷い姉なのです。

そういう割に弟は弟で、鈴姉が他の男と話しているのを見ればムッと来たりしていて、姉もブラコンなら弟もシスコンという、羨ましいほどバカ姉弟。

あら。そんなの当たり前じゃない……
だって、私ブラコンだも～～♪
そんなもって、洋介はシスコンなんだよね～～？
……はっ！それってもしかして、近親相姦というヤツなのでは……

たまらん！

そんないじわるな鈴姉に「……いつまで経ってもお姉ちゃんっ子なんだから♪」なんて言われた日にはあっけなく陥落。小悪魔チックな姉が好みなら、鈴姉に可愛がってもらうだけのために本作を買っても損はないでしょう。

・櫻井 詩乃 (担任)

スローペースがマイペース。海原エレナ

さんの声がよく似合うおっとり系。知的で豊乳な化学教師です。

担任である彼女も主人公の家に押しかけて同棲を始めます。同棲3女教師の中で最も大胆かつ積極的。男の扱いは並じゃない玄人という所が、見かけとのギャップで萌えます。

かと言って甘くて優しい先生かと思えば、スパルタ教師。どうスパルタなのかはゲーム中語られない所が怖さを倍加させます。

赤点なんて、許しませんからね～～♪
もし1人でもそんなことになったら、
わたくし……わたくし……
ああ！これ以上は怖くて、わたくしの
口からはとても……っ！

隠れサド。

・槇 いずみ (新人教師)

鈴姉、詩乃先生とともに押しかけてくる新任の教師。

体育教師の例に違わず、男勝りできばさばタイプ。但し、暴力はかなり控えめ。主人公とは、この春初対面なのに、気取らない姉と弟といった雰囲気味わえます。そんないずみ先生も、実はかなり純情なところがあって、その顔がのぞいた時はかなりの萌えパワーが発散。

もともとは奥手な方だったと思えるところ、鈴姉と詩乃先生に影響されて…でもやっぱり照れ屋っぽく、可愛い年上に仕上がっています。

■意外にポリュームあい

王道学園ラブコメに、幼なじみ+姉代わりな鈴姉だけでも満足なのに、さらに2人の誘惑系先生、素直じゃない可愛い先輩と年上天国。姉属性には居心地の良い世界に包まれてみて下さい。

【姉コミック】

どきどき姉弟ライフ (全4巻)

著者	後藤羽矢子
出版社	竹書房
ISBN	4-8124-5520-0



■見かけにそぐわぬ姉モノ

タイトルで「姉弟」とあるのに、表紙イラストには、童顔で背の低い女の子。これが姉弟モノか？「姉弟」の文字が目を引くと考えて付けただけじゃないのか？と、今から思えば失礼なことを考えつつ買ってしまったのですが…

これが大当たり！れっきとした姉モノでした。あー、厳密に言えば“弟モノ”とも言えるんですが。

■弟萌之姉晝の日常4コマ

主役は姉の「あゆこ」。OLですが、高校編や中学編も収められています。

基本的にあゆ姉の行動を追いかけて行くスタイルの4コマですが、このあゆ姉は弟激ラブ、真性のブラコン。このブラコンぶりがオチの中心です。弟に喜んでもらうために空回り、弟に近づき作戦を図って失敗とか。ただ、正面切って大好きとまでは言えず、片思いのようなもどかしさがある、単なる甘口に終わらせていません。

対する弟「くまお」は、背の高いおっとりおとなしめの青年。比較的無口なので、あゆ姉のことを面白い姉貴¹だなあと見ているくらい。でも、後半は心の内が見えてきます。

¹ 呼び方も「姉貴」です。

弟の方は姉好きの素振りを序盤ほとんど見せないで姉モノとしては物足りなく感じるかも。しかし、本作のキモは「一人ドタバタ劇を繰り広げるあゆ姉の弟ラブっぷりを楽しむ4コマ」ですから。

■ストーリーも良作

この漫画は全4巻。基本はOLあゆこと専門学校生くまおの同棲生活。姉弟で同棲も何もないと言えますが、この2人の場合一特に姉視点で見れば一同棲と言っても間違いではないはず。とは言え、ストーリーが進む過程で同棲をやめたり元に戻ったり、そんな姉弟の関係を追うのも面白い所です。

言い忘れましたが、この姉弟、実は血の繋がりがありません。そして、その事実を知っているのは姉のあゆこだけで、弟くまおは知りません。血の繋がりが無い事実を姉はどう捉えているのか、くまおは知ってしまうのか、この辺もストーリーに組み込まれています。

■普通の4コマとしてもお勧め

作者の後藤羽矢子先生は今4コマ誌でノっている一人だと思うのですが、それもうなずけます。4コマとして面白いです。姉好きならなおさらに！

【姉コミック】

kiss x sis

著者	ぢたま某
掲載誌	週刊ヤングマガジン 2004/2/2 (No.8)



■ 萌え姉×2×ぢたま某×kiss

ヤンマガに姉萌えの読み切りが、しかもぢたま某先生の！とのタレコミを受けて、早速調査に向かったとある書店。購入前にちょっと下調べと思って開いてみたら、その場でくたっと膝の力が抜けそうになりました(実話)。

それほどまで姉萌え魂をくすぐるコミックが、この「kiss×sis (キスシス)」。

主人公は中3男子。彼には高校生の双子の姉「あこ」と「りこ」がいる¹。この姉2人、寝ている間に弟のベッドに潜り込んで弟の腕枕を奪取。目が覚めればおはようのディープキス責めに加え、あんな所を使ってスキンシップ。それでもなかなか姉になびいてくれない弟の気を引こうと、あれこれアタック。さらには「あこ」も「りこ」もお互い弟を取られまいと張り合うあまり、エスカレートするが…といったベタベタな姉萌えラブコメです。

■ どちらも魅力的な姉2人

あこ姉とりこ姉は双子ですが、性格は対照的。あこ姉は積極的に動きまわり、よく喋るタイプ。対するりこ姉は、口数少なめのおとなしいタイプながら、木刀振り回す凛々しさも兼ね備える姉。しかし、弟にかける愛情の強さにかけてはどちらも同じ。

¹ 父の再婚相手の連れ子であり、血の繋がりはない。

弟の事を気かけながら、なかなか言い出せない照れ屋で素直じゃない姉も良いですが、弟ラブ光線を遠慮無く浴びせてくる姉も好きな弟にとってはたまらないはず。

こんなに弟の心をもてあそぶようなげしからん姉を、しかも2人も登場させるぢたま先生。姉コミック作家²と認定します。

■ ぜひ連載か短編集にでも!

こんなにステキな姉コミックの kiss×sis。1話こっきりの読み切りなのが非常に惜しいです。これがぢたま先生の作品集などに収められているのであれば、まだ見つけやすいのですが、今のところその様子もなく、バックナンバーを探すしかないようです³。

「続編のリクエストは編集部まで！」のコメント通り、アンケート葉書に書いて送ったのですが、半年経った今現在も続編の気配はなし。こんな話の膨らみそうなぢたま先生の萌え漫画をないがしろにするヤンマガ編集部、読みが甘すぎ！姉モノはこれから来ますよ？せめて短編集にでも収録されて、再び日の目を見るようになるのを祈るばかりです。

² 成年コミックで「好きだけど好きだから」(ティーアイネット)という姉弟モノも出されています。

³ 全姉連ホームページの2004/4/23の記事をくまなく探すと良いことあるかも。

成年姉コミック簡易レビュー

気になって読んでみた成年姉コミックでお勧めをいくつか挙げておきます。

成年コミック分野では姉モノ比率が高いんですが、ハズレ率も高い！高すぎ！しかも、姉を謳うアンソロジーに限ってハズレが多い。姉という存在に愛を感じられない作家は、わざわざ描いてくれなくて結構！

ある成年コミックが真に姉モノかどうかを1話で見分ける方法。それは「その姉(年上)は、弟(年下)を愛しく思っているか」です。姉弟愛ですよ、姉弟愛。

稚名はなび『姉だく』

大洋図書ミリオンコミックス/ISBN4813009328

「姉だく」という割には11話中で姉モノは半分程度。しかし、その姉モノがどれも良い具合なのでお勧め。

それぞれ別の姉弟のお話で、姉に頭の上がない弟や、やりたい盛りの弟を慰める姉など多種類の姉弟が登場する。

姉以外でもブルマ、スク水、メイド服と美味しいトコ取りで、全体で姉弟率半分でも満足できよう。

ToWeR『姉には絶対かなわない』

TSUKASA COMICS/ISBN4812807549

OLの姉と高校生の弟のエッチな日々。1話ごと読み切りで、難しい事を考えず気楽に読める成年コミック。

姉は頭のネジが若干緩んでいる感じで脳天気。基本的にギャグテイストの姉萌えが楽しめる。エッチは全て姉が弟を可愛がるスタイルで弟が主導権を握る事はない。

むつきつとむ『としようえの魔女たち』(全2巻)

シュベール出版/ISBN4883322106

成年コミック扱いだが、内容的には青年誌の王道ラブコメ風で、ストーリー重視。母親と同年だが、童顔で萌え顔の可愛い女性と高校生が、くっついては離れるお話。若さゆえに突っ走る主人公を手玉に取ったり、あるいは取られたり。

とは言っても成年コミック。エッチ多し。ヒロイン以外の登場人物の年上率が高い。

名刺型 CD-ROM で再販されており、人気も高いと思われる。

KEPPI『ゆーわく 超姉萌え』

蒼竜社プラザコミックス/ISBN4883861961

発売当初は評価が低かったのだが、改めて見返してみると、それなり姉モノっぽい面もあったので、再評価。

従姉やご近所姉も登場するが、おおむね姉・年上なので合格基準。「超姉萌え」とまで言うのだから、全話100%姉で貫き通して欲しかった所。

エッチはねちっこいタイプで、好きな弟には良いだろう。

ぢたま某『好きだけど好きだから』

TI ネット MUJIN COMICS/ISBN4887740093

『kiss×sis』のぢたま先生の成年コミックデビュー作。1冊全部で通しのストーリー。小さい頃から関係を持つ姉弟。その弟に好意を持つ同級生が現れ、その同級生の友人も巻き込んだ恋愛感情が交錯する。雰囲気は完全に少女漫画風。成年コミックである必要は少ないとさえ思われる。

姉と弟の関係は成就されないので、甘い姉弟愛を期待してはいけない。作品の主題はインセストの方にあり。

最後までお読み頂き、ありがとうございました。
相変わらず萌え本でなくて、すみません。
今回もいくつか姉モノを紹介しましたが、これでも全姉連上にタレこまれた情報の一部です。私に取り上げていないものでも、ステキなお姉ちゃんはたくさんいますので、本書は参考程度に。



んー、やはり今年は姉しよ2に始まり姉しよ2に終わるような予感。
果たして下半期には、姉しよに肩を並べるような熱い姉ゲーは出るんでしょうか。出て欲しいんですけどね。姉ゲーライター・竹井10日氏が新作構想中だそうです、かなり先になりそうだし。
今現在、これといった本格的姉ゲー情報が見あたらないので、このままでは第3号の目玉が一…って次も本を出せるのか？



冒頭にも書きましたが、時代は姉ゲーだけではなく、姉コミックにも来ていると思います。全姉連サイト上でもいくつか紹介はしているんですが、なかなか実際に読む機会が無く…。漫画の方が単価も安く、手を出しやすいはずなのに、何故？今後は姉コミックにも目を向けたいですねえ。



それではまた、サイト上で、あるいはオフラインでお会いしましょう。
12月のお姉ちゃん祭りもお楽しみに。多分開催！

全姉連会報 第2号

発行：全姉連 総本部

発行日：2004年8月15日

著者：全姉連総裁

連絡先：sousai@zenaneren.org

全姉連総本部 <http://www.zenaneren.org/>
(mobile : <http://www.zenaneren.org/a.cgi>)



本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。
ここに敬礼申し上げます。